

子どもの「依存」する心理

～「依存」のキーワードで、「子どものこころ」を理解しよう～
胎児期から児童期までのこころの動きを参加者とともに考える

期 日：2017年11月12日（日）＜一日コース＞

受講対象：保育・教育・医療・司法・福祉の分野で子どもに関わる専門職、大学院生他興味のある方
（心理相談員、保育士、教諭、医師、看護師、保健師、SWなど）

定 員：80名（定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください）

受講料：7,000円（税込み） ※昼食は各自おとりください

主 催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 ☎ 03-3986-7021

会 場：明治安田こころの健康財団 講義室

東京都豊島区高田 3-19-10 ※詳細地図は受講証に添付いたします

JR山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約7分

講師 渡辺 登 先生（赤坂診療所所長、医学博士、精神保健指定医、産業医）

母親のからだの中にいた頃には、こころの安心や肉体の満足は常に得られていました。胎児は欲しいものをすべて手にしていたので、何ひとつ望むことがなく満たされ続けたのです。依存しないと生きていけないのに、依存しているとさえ思わないですみました。

この世に生まれた後は、依存を始めます。生き延びるために、依存は欠かせません。無力な赤ん坊にとって、母親に抱っこされ、おっぱいを吸えてこそ安心と満足は得られます。見つめたり、微笑んだり、しがみついたり、泣き出したりして、母親からぬくもりやおっぱいを求めるのです。生き延びるために、赤ん坊は言葉にならないメッセージで、母親を思うままにコントロールしようと試みます。幼児期ともなれば、自発的に動き始めます。親や周りの人に信頼感を抱くので、ひとり歩きは恐くありません。たとえ躓いても、ひるまず希望をもって立ち上がれます。裏切られたとしても、うらんだりせず、人間への信頼感を見失いません。なぜなら恐れや不安、苦痛に襲われたとき、母親にすがれるからです。温かく見守られているという実感を、子どもはしっかりと抱いています。胸に飛び込んできた子どもを、母親は抱いたり声をかけたりして、不安や苦痛を癒します。子どもが笑えば、母親は笑い返すのです。母親との相互関係を重ねて、幼児は母親のイメージをこころのなかに造り上げます。安心を与えてくれる母親イメージが、ひとり立ちを支えてくれます。だから母親より離れて、家庭外での活動に主体的に参加していけるのです。

児童期を迎えると、子どもは生き方を分かち合うような仲間を強く求めます。友人との関係では、協調しつつ楽しまなければなりません。なぜなら、友人は同情や寛容という美德を身につけておらず、自分が遊ぶことを優先するからです。友人とは計算ずくで、妥協します。この妥協は、等しい関係での、支え支えられるという成熟した依存が育まれていく前兆です。自分と同じように欲しい物やしたいことのある友人がいることを知り、楽しく遊び、安心と満足を得るためには自分の欲求を抑えたり、適当なところで手をうつ必要があることを学んでいきます。

私たちにとって依存することは、悪いことではありません。むしろ依存は、こころの安心と肉体の満足を求めるために欠かせません。発達段階にふさわしい依存であれば、よい依存と判断します。よい依存はつぎの発達段階に進むのに役立つからです。

今回の講座では、胎児期から児童期までの子どもの「依存」する心理について、わかりやすく解説します。合わせて、質疑応答の時間をたっぷりとして皆さまからの質問をもとに子どものこころの動きや親との接し方についても皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。

【赤坂診療所所長 渡辺 登】

日程	時間	テーマ	*講義は物語形式で進める予定です
11月12日（日）	9:30～11:30	講義：胎児期・新生児期の依存	
	昼 食	（各自おとりください）	
	12:30～14:30	講義：乳児期・幼児期・児童期の依存	
	14:45～16:30	質疑応答 ※質問用紙を事前にお送りください	

●子どもの発達と「依存」は密接に関わっています。現場の皆さまの質問や困っていることに「依存」の切り口から渡辺先生にお答えいただきます。質問がある方は10月20日までに当財団「研修事業部宛」にFAXあるいはメールにてお送り願います。形式は自由ですが質問用紙はHP上の申込書に添付しております。